

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北海道)		百貨店（販売促進担当）	・3か月後は冬季アジア大会やさっぽる雪まつりが開催される。また、さっぽる雪まつりと春節の期間が重ならないこともあり、比較的長い期間にわたり来道する観光客が増えると思われるなど、今年よりも条件が良くなるため、景気はやや良くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・各メーカーで新型車の発表が続いているため、相乗効果で販売が盛り上がるのが期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・11月までの収益が前年を超えており、今後についてはやや良くなる。賞与にも期待が持てる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・中国と韓国からの旅行商品を新規に設定したことで、増収が見込まれる。また、市内のコンサート需要による予約も好調に推移している。
		旅行代理店（従業員）	・道東では1～2月の流水観光を中心に、冬の観光客が増加傾向にある。冬のアクティビティが充実してきていることに加えて、今年度は知床の新しいイベントも開催されるため、外国人観光客を含めて観光客の増加が期待できる。
		旅行代理店（従業員）	・募集旅行への問い合わせ件数が例年と比べてやや多いため、今後についてはやや良くなる。
		タクシー運転手	・これから年末年始を迎えて、年間を通してタクシーの利用が最も増え、忙しくなる時期となるため、今後の売上は増えることになる。
		タクシー運転手	・高齢者の運転免許証自主返納の動きの高まりが需要を喚起しており、今後についてはやや良くなる。
		タクシー運転手	・冬期間は需要が増えるため、12月からの2～3か月は良くなるのが期待できる。
		観光名所（従業員）	・全体的な観光入込は冬季観光の本格シーズンを迎えるなかで、これまでと同様に北海道新幹線効果による押し上げが見込まれる。ただし、空路では国際定期便の運航停止により外国人観光客の伸び悩みなどが見込まれることから、全体的な景気としてはやや良くなる程度で推移する。
		美容室（経営者）	・12月はやはり繁忙期であり、来客数の増加に加えて、客単価の上昇も見込まれる。
		住宅販売会社（経営者）	・道南は観光産業が絶好調で、その影響がじわじわと表れ、不動産なども動いてくるようになってきた。消費にはまだ直結していないが、これから段々と消費が上向き、住宅への需要も高まることが見込まれる。
		商店街（代表者）	・株価が上がっているが、全体的にみると、消費の動向は前月までと変わらないため、今後もこのままの状態推移する。
		商店街（代表者）	・2月上旬には当市三大祭の1つ氷まつりが開催される。近年、氷まつりは来場者数を伸ばしていることもあり、中心市街地においても若干の来街者増加が見込める。ただし、中旬以降は例年出控え、買い控えの時期となるため、全体としては悪い状態のまま推移する。また、道外などから例年以上の観光客が訪れる見込みもないため、夜型飲食店の売上が伸びる要因も見当たらない。
		商店街（代表者）	・これからの季節、北海道では外国人観光客による需要で売上を保つことになるが、客単価の低下が顕著なため、今後について不安を感じている業種が多い。
		商店街（代表者）	・冬期は客の出足が一層悪くなるため、今後についても厳しいまま変わらない。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・11月の売上は前年比101%、前々年比109%となっており、前年からの変化はなかったものの、前々年からは良くなってきている。これは外国人観光客によるところが大きく、現在は売上の40%を中国、台湾などの外国人観光客が占めている。一方、国内観光客の動向については、これまでと景気が変わらないとの話が多い。これらのことから、今後も景気は変わらないまま推移する。
	一般小売店〔酒〕（経営者）	・いまだに消費に力強さがみられない。ここ数か月、同様の状態で推移しているため、今後についても景気が大きく変動することはない。	
	百貨店（売場主任）	・外国人観光客による売上は前年比マイナス6%であったが、減少分を地元客による売上でカバーできた。ただし、客単価は低いままであるため、クリスマスや正月といった購買動機につながる要因がない限り、不安な状況が続く。	
	百貨店（担当者）	・来客数増加の兆しがみられないため、今後も変わらないまま推移する。	

百貨店（営業販促担当）	・当店が扱う中価格帯の衣料品はコート、ジャケットなどの高単価アイテムの動きが特に厳しいため、今後も苦戦が続くことになる。
スーパー（店長）	・ギフトの立ち上がりなど、年末商戦に向けた動きが出ているが、最近は直前にならないと客に動きがみられなくなっている。また、ここ数年は売上のピークも段々となくなっており、年末といってもそれほど大きく売れなくなってきた。
スーパー（店長）	・客の価格志向は今後も変わらない。
スーパー（店長）	・米国大統領の交代が、日本経済にどのような影響を与えるのかが不透明であるが、客の節約志向は今後も変わらない。
スーパー（店長）	・景気が大きく変動するような兆しを感じられないため、今後も変わらない。
スーパー（企画担当）	・ＴＰＰの動向も不透明となり、現政権への不信感がつのっている。ＴＰＰは農業従事者を目覚めさせた面もあるが、先行きがあいまいとなり、糸の切れたたこのような状態となっている。
スーパー（役員）	・来客数が減少しているものの、相場高により客単価が上昇しており、売上は前年を上回っている。年末商戦については、天候要因や相場の上昇により厳しい状況が見込まれるが、ここ数か月、売上ベースで変化がみられないことから、今後についても変わらないまま推移する。
コンビニ（エリア担当）	・当地に入港する貿易船の隻数や工事量などの外部要因に変化が見込めないため、今後も変わらない。
コンビニ（エリア担当）	・日々の来客数が回復するような動きがみられず、これから回復するような外部要因も見当たらないため、今後も変わらない。
衣料品専門店（経営者）	・年末年始商戦に期待している。当店のようない呉服専門店にとっては最も忙しい時期である。
衣料品専門店（店長）	・来客数が前年を下回っているため、今後も変わらない。
家電量販店（店員）	・11月は外国人観光客の来店が減ったものの、今後については変わらないまま推移する。
乗用車販売店（経営者）	・軽自動車を除いた当地区の新車市場が全国と同様に前年を上回っていることに加えて、新型車の受注も好調なことから、今後も好調なまま推移する。
乗用車販売店（従業員）	・景気が上向くような材料が見当たらない。
自動車備品販売店（店長）	・売上について、良くなるというよりも前年を維持できれば良いという状況であり、前年比100%を目標に経営していることから、今後も変わらない。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・今後も客の動きが読めない月が続くとみられ、景気は変わらないまま推移する。
高級レストラン（経営者）	・時期的に、年末に向けて歳末商戦が始まるため、売上は増加することになるが、例年よりも売上が多くなるかは不透明である。今後も円安、株高が進むとみられるが、一般市民への恩恵は少ない一方で、食品の価格が上がるのが懸念される。家計が苦しくなれば、不景気感はますます強くなる。
高級レストラン（スタッフ）	・道民の動向は読みにくい。目立った不景気の原因はないが、仲間の店が閉店したり、ランチをやめて夜営業だけにしたといった動きがあるなど、明るい話題が少なく、景気が上向いている様子も感じられない。
旅行代理店（従業員）	・大きく景況が好転するような要因や兆しを感じられないため、今後も変わらない。
タクシー運転手	・この先の予約状況や問い合わせ件数がほぼ前年並みで、特別増加するような要因も見当たらないため、今後も変わらない。
通信会社（社員）	・今後も消費税増税に関する報道がちらほらと出てくるとは思うが、実際の予定時期はまだ先であるため、今後も変わらない。2017年は相変わらずため息の多いスタートとなることが見込まれる。
通信会社（社員）	・新入学シーズンを控えて、業界的には繁忙期を迎えることになるが、毎年前倒し傾向が強まってきていることから、大きな伸びがみられないことが懸念される。
観光名所（職員）	・最低賃金の引上げや物価上昇などにより、働き手や一部の企業には恩恵が生じているが、自社や周囲も含めた大多数の企業から、景気が良くなったとの声が聞こえてこないため、今後も変わらない。
パチンコ店（役員）	・良くなる要因も悪くなる要因もないため、今後も変わらない。

	美容室（経営者）	・以前は天候によって来客数が大きく変化していたが、最近 は天候に左右されることがあまりなく、安定して推移してい るため、今後も売上は安定的に推移する。	
	その他サービスの動向 を把握できる者〔フェ リー〕（従業員）	・例年、冬期間は輸送量に著しい変化がみられないため、今 後も変わらない。	
	住宅販売会社（経営 者）	・米国の次期政権の誕生を控えて長期金利がマイナスからプ ラスに転じるなど、今後、予想できないことが多々起きると みられるため、今後2～3か月先の動向までは分からない。	
	商店街（代表者）	・客の消費意欲が今までにないほど減退していることから、 今後についてはやや悪くなる。	
	スーパー（企画担当）	・農産物、水産物の価格上昇などから、買上点数が前年と比 べて軟調しており、実質賃金が増えないなかで買い控えの傾 向がうかがえる。燃料価格もじわりと上がってきており、今 冬の消費動向は厳しくなるとみられる。	
	スーパー（役員）	・農業、漁業関係が不振である。関連産業の従事者も含めて 節約志向が強まっている。	
	コンビニ（オーナー）	・コンビニ本部が出店を加速させるなど、過度の出店競争が みられるものの、末端の店舗スタッフの給与アップ、長時間 労働の改善、休日を取りやすくするなどの働き方改革が行わ れていないため、退職者が発生しても人員を補充できず、人 手不足が一層進んでいる。低所得者がもっと消費行動を行う ような環境づくりをしなければ景気は良くならない。	
	衣料品専門店（店長）	・このままバーゲン期に入っても値下げした商材しか稼働し そうになく、客単価のアップが見込めないため、今後につ いてはやや悪くなる。	
	乗用車販売店（従業 員）	・雪が降り、寒くなると客足が鈍くなる。毎年、タイヤ交換 を機に来客数が減り、それに伴い販売台数の落ちる状況が3 月まで続くため、今後についてはやや悪くなる。	
	その他専門店〔ガソリ ンスタンド〕（経営 者）	・需給のひっ迫から灯油価格だけが上昇しており、利幅が縮 小しているため、今後についてはやや悪くなる。	
	その他専門店〔造花〕 （店長）	・地方に向けた景気対策がないと感じられるため、今後につ いてはやや悪くなる。	
	高級レストラン（ス タッフ）	・円安などの影響から中国を始めとした外国人観光客による 爆買いが減少すると見込まれる。	
	旅行代理店（従業員）	・先行受注の数字をみても前年の9割以下であるため、今後 についてはやや悪くなる。	
	旅行代理店（従業員）	・旅行申込の受注が前年と比べて少ない。円安が進んでいる ことで、海外旅行のツアー代金が値上がりするほか、現地で の消費に割高感が生じることになるため、今後は海外旅行の 出かけ方に影響が生じることになる。	
	タクシー運転手	・冬期観光において外国人観光客が増加することへの期待も あるが、景気全体を押し上げる絶対数とはならないため、今 後についてはやや悪くなる。	
	タクシー運転手	・景気の良さがうかがえない状況にあるため、今後2～3か 月は期待が持てない。地元客の動きが低迷しているうえ、冬 期は観光客も伸び悩むため、今後についてはやや悪くなる。	
	×	百貨店（役員）	・本来、需要のピークとなるこの時期に景気が上向いてこ ない。これから先の景気は下向くと考えざるを得ない。
	×	コンビニ（エリア担 当）	・主力のさんま漁、さけます漁が厳しい状況で終了してい る。特にさんまは2000年以降で最も少ない漁獲量となってい るため、漁師だけでなく、運送業者、加工場、燃料関係にも 影響を与えている。関係者からは年越しできないとの話もよ く聞かれる。
	×	観光型ホテル（役員）	・台湾の航空会社の倒産により、域内空港の台湾との定期便 がなくなったため、冬期の観光シーズンに向けて主力となる 台湾ツアー客の集客が困難となっている。
企業 動向 関連 (北海道)		その他サービス業〔建 設機械リース〕（営業 担当）	・災害復旧工事が本格化してくることで、今後の景気はやや 良くなる。
		その他サービス業〔建 設機械レンタル〕（総 務担当）	・政府の景気対策が進むことが期待できる。
		食料品製造業（従業 員）	・今後2～3か月の受注状況について、今のところ大きく変 化する要因が見当たらないため、変わらない。
		家具製造業（経営者）	・米国の大統領選後の経済的な影響である、株高、円安はわ が国にとっても好材料であるものの、先行きが不透明であ り、現状では判断し難い。

	建設業（経営者）	・冬期を迎えて、官民、土木建築ともに新規受注がほとんど見込めず、手持ち工事の完成とともに稼働が落ちてくることになる。
	輸送業（支店長）	・国内輸送は道内から本州への現場向け物件などが決まっていることで、道内の冬期間の輸送品不足を補えるとみられるものの、輸入貨物は円安が進んでいることで厳しい収支となることが懸念される。
	通信業（営業担当）	・この先の景況感は現状同様にやや良い状態が持続するとみているが、米国の新政権の政策が見極められないこともあり、一層の景況感の浮揚までは考え難い。
	金融業（従業員）	・大型経済対策や災害復旧の公共工事の本格化が、観光関連業種の減速や台風被害の悪影響を補い、道内の景気は現状のまま推移する。
	司法書士	・建物の新築については前年の同時期と比較して上向き傾向にあるものの、不動産取引については大きな変動もなく、低い水準が続いていることから、今後も変わらないまま推移する。
	司法書士	・景気回復に向けての施策がみえてこない。北海道は例年より早い冬の到来となっており、暖房などの費用がかさむことで、無駄を廃する状況が見込まれ、消費も控えめになる。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・復旧工事の発注に伴う設備投資の引き合いが出てきているため、今後については堅調に推移する。
	食料品製造業（従業員）	・懸念していた原材料の値上がりが始まっているため、今後についてはやや悪くなる。
	建設業（従業員）	・観光ホテルや医療機関では大手の競合により営業収入が伸びておらず、次年度の設備投資に対して慎重になっているため、今後についてはやや悪くなる。
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・12月納期の仕事が多い一方で、顧客に積極的な動きがみられず、1月以降の作業が不透明なため、今後についてはやや悪くなる。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・今後の機械設備の納入が見込めないため、通常の売上に戻るとみられ、売上は11月から20%程度減少することになる。
	x	-
雇用 関連 (北海道)		-
	求人情報誌製作会社（編集者）	・基幹を成す農畜産業の基盤が安定していることから、今後についても期待できる。また、災害復旧事業が本格的に始まることで、当初の想定よりも回復が早く進むことが見込まれる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・人は欲しいが、集まらないという状況が今後も続きそうだ。人手不足と景況感の改善により、採用ニーズは若干高まることになる。
	職業安定所（職員）	・有効求人倍率が1.07倍と1年5か月連続で1倍超えの高水準が続いているため、今後についてはやや良くなる。
	人材派遣会社（社員）	・年末年始の活況が一服するものの、事務、営業系の求人、派遣ニーズは底堅いまま推移するとみられ、3月までは横ばいで推移する。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人広告件数は業種ごとに増減のばらつきがあるが、全体としては前年、前々年と同様の動きをしているため、しばらくは大きな動きはないとみられる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・今が景気の底だと考えたいが、上向く要素もないため、現状のまま推移する。
	職業安定所（職員）	・ここ数か月、正社員以外の求人が増加し、正社員求人が減少する状況が続いていたが、11月はともに減少となった。ただし、求職者の減少傾向が続いていること、求人の増減につながるような情報がないことから、今後については職業間のばらつきはあるものの、有効求人倍率は1倍前後で推移するとみられる。
	職業安定所（職員）	・季節的に新規求人数の増加は小幅にとどまるとみられるが、若干増加した有効求職者数が減少する要因も見当たらないため、今後も変わらないまま推移する。
	職業安定所（職員）	・北海道新幹線開業後、観光関連で恩恵を受けている企業は確かに存在するが、地域全体への波及効果が限られていることから、今後も現状維持の状態が続く。
	学校〔大学〕（就職担当）	・各企業の採用意欲は6～7月と比較しても一様に高い状況が続いているため、1月まではこのままの状況で推移する。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・個人消費の低迷に加えて、人材難に伴う企業の経営規模の縮小、サービスの低下が生じるとみられるため、今後についてはやや悪くなる。
	x	-